

世界農業遺産

認定記念シンポジウム

世界農業遺産の認定と今後の活用策を考える

～「たたら製鉄を起源とした奥出雲の農業」の可能性～



主催 奥出雲町農業遺産推進協議会

共催 奥 出 雲 町

奥出雲町教育委員会

世界農業遺産認定記念シンポジウム

世界農業遺産の認定と今後の活用策を考える

～「たたら製鉄を起源とした奥出雲の農業」の可能性～

次 第

受 付

13:00～

1. 開 会

13:30～13:55

2. 主催者挨拶

奥出雲町農業遺産推進協議会

会長 糸 原 保 (奥出雲町長)

3. 来賓挨拶

島根県知事 丸 山 達 也 様

農林水産省農村振興局農村政策部鳥獣対策・農村環境課

農村環境対策室 室長 吉 見 友 弘 様

4. 来賓紹介

5. 基調講演

14:00～14:40



演題 「農業遺産の保全・活用と未来への継承」

講師 東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授

世界農業遺産等専門家会議 委員長 八 木 信 行 氏

《経歴》 農林水産省世界農業遺産等専門家会議の委員長などを務める。国連食糧農業機関 (FAO) 世界農業遺産の科学助言グループ委員 (2019-2023 年)、2022 年は議長を務める。専門は、地域開発論、水産経済学、マーケティング。

14:45～15:15



講題 「奥出雲人の尊厳と世界農業遺産」

講師 京都大学人文科学研究所 教授 藤原辰史氏

《経歴》 1995年 島根県立横田高校卒業、1999年 京都大学総合人間学部卒業
2025年京都大学人文科学研究所教授。著書に「縁食論」、「食べるとはどういうことか」、
「分解の哲学」、「ナチス・ドイツの有機農業」、「カブラの冬」など。
専門は農業史、食と農の思想、ドイツ現代史。

《 休 憩 》

6. パネルディスカッション

15:20～16:30

「世界農業遺産を通じて奥出雲の未来を共創する」



〔コーディネーター〕 教育テック大学院大学 教授 大和田 順子 氏

《経歴》 世界農業遺産専門家会議委員を歴任。総務省地域力創造アドバイザー。
2025年4月から教育テック大学院大学 教育経営コース主任・教授。
専門はソーシャル・イノベーション、地域デザイン。

〔パネリスト〕

農 業 ： ただも農園 石原 隆幸 氏

観 光 ： 絲原家 16 代目 絲原 丈嗣 氏

交 流 ： 有限会社咲楽 内田 咲子 氏

食文化 ： 和彩空間たち花 立花 秀明 氏

農 泊 ： 奥出雲多根自然博物館 館長 宇田川 和義 氏

7. 閉 会

祝 世界農業遺産

Globally Important Agricultural Heritage Systems

たたら製鉄を再適用した奥出雲地域の
持続可能な水管理及び農林畜産システム



〈奥出雲の農業システムの特徴〉

- 砂鉄鉱山を起源とする棚田と水路網の継承
- 稲作、和牛、森林利用による複合的農業
- 地域資源を循環利用する農林畜産業（耕畜連携の循環型農業）

たたら製鉄を再適用した奥出雲地域の 持続可能な水管理及び農林畜産システム



砂鉄採取跡地に拓かれた棚田景観（奥出雲町大呂 福頼集落）



たたら製鉄から 持続可能な農業へ

島根県奥出雲地域は、江戸時代から明治初めを最盛期として、櫻井家、絲原家など鉄師を中心に「たたら製鉄」が営まれ、稲作、和牛、林業と結びつきながら、製鉄と農業で地域の暮らしと経済を支えてきました。かつて砂鉄を採取するために、水路やため池を設けて山麓丘陵地に水を導く「鉄穴流し」と呼ばれる採掘技術によって山を切り崩し、その跡地は農地に再生しました。

砂鉄採掘に用いた水路やため池は農業用に再利用し、採掘跡地の養分のない痩せ土には土壌改良にソバなどを蒔き、製鉄の運搬に用いた和牛の堆きゅう肥を水田に施用することにより、農業生産性を高めました。

一方、森林資源も循環利用しながら水源涵養力を保全し、限られた水資源を無駄なく供給する水路網、水の利用管理の慣習を受け継ぎ、稲作、和牛、林業を中心とした持続可能な農林畜産業が営まれています。



農業

食料と生計の保障

自然と共生する循環型農業

- 稲作を中心に、和牛飼養による堆肥の施用、耕畜連携の農業が受け継がれています。
- 稲作と和牛、シイタケ、ソバ栽培と組み合わせた複合的経営が行われています。
- 水稻、和牛、ソバ、特用林産物の生産が本町の農業生産額の約9割を占めています。



仁多米



奥出雲和牛



原木シイタケ



ソバ



環境

農業生物多様性

遺伝資源の保存

- 農業を通じて、水田や水路の水辺、畦畔草地、森林の環境が維持されています。
- 農業を通じて、自然生態系が維持保全され、多様な動植物が生息しています。
- 森林の環境が保全されることで、訪花昆虫などの生息地として、ソバなどの結実率を高め、遺伝資源を保存しています。



オキナグサ



アキアカネ



ドジョウ



サワガニ



アカハラモリ



トノサマガエル



伝統的な 知識システム

資源の循環利用

- 和牛の排泄物を再利用し、堆肥を施用した土づくりが行われています。【農地の利用】
- 森林を循環利用した木炭、シイタケ等の生産が行われています。【森の利用】
- 水を安定供給するため、水路・ため池の共同による維持管理と、水の利用管理の慣習が継承されています。【水の利用】



文化、価値観 及び社会組織



大呂愛宕祭



出雲そば



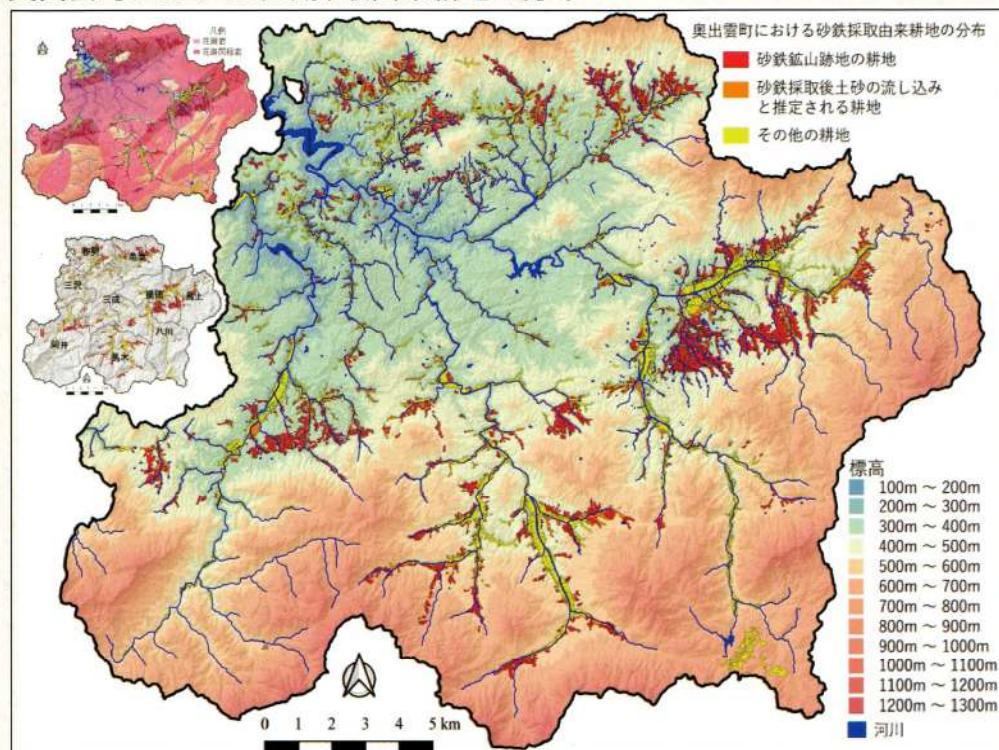
笹巻き

- 農業を通じた伝統行事、地域の祭りが伝承されています。
(大呂愛宕祭、阿位押輿神事など)
- 四季と農業、暮らしの中で、郷土食が息づいています。
(そば、笹巻きなどの食文化)
- 五穀豊穡の祈り、収穫への感謝、牛馬の安全祈願等が地域で行われています。(価値観)
- 水路組合等の水利組織により共同で水路網を維持し、水の利用調整が行われています。(社会組織)



ランドスケープ の特徴

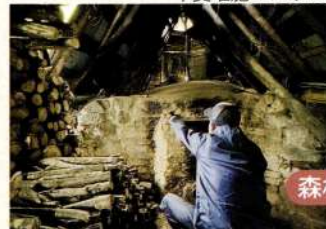
奥出雲町における砂鉄採取由来耕地の分布



牛糞堆肥「コエグロ」



堆肥を施用した土づくり



木炭の生産



シイタケなど特産林産物の生産



水資源を棚田へ安定供給する水路網



水路の決壊を防ぐ排水設備「水落とし」

- たたら製鉄の鉄穴流しと呼ぶ砂鉄採掘技術によって山々を切り崩し、広大な農地が開発されました。
- 鉱山跡地を農地に再生し、水路やため池を農業用に再利用しました。
- 四季折々の里地里山や地域固有の景観が農業の暮らしの中で維持保全されています。



福頼棚田展望台からの眺め(奥出雲町蔵屋方面)

砂鉄を採掘した跡地は、水路やため池を再利用し棚田を造成しました。



砂鉄採掘の際に残された小山「鉄穴残丘」(奥出雲町福原)
小山には墓地やご神木、祠などが祀られ、独特な景観が保全されています。

奥出雲の 農林畜産システム

奥出雲の先人は、自然資源を利用し、砂鉄、木炭、粘土を用いて鉄をつくり出してきました。そして、森林や水資源を利用し、農地を耕すことで食料を生産し、生計を支える持続可能な農林畜産業が発展しました。この農林畜産システムは今も受け継がれています。

伝統的な水管理

森林で蓄えられたミネラルを含む清冽な水が水田に導かれています。山奥の河川から取水し遠くからの水路を維持管理したり、ため池に水を溜めて水資源を確保し、水路組合等の水利組織によって共同作業で維持管理を行い、稲作が行われています。



棚田

水の利用

山の利用

木炭の需要は昭和30年代より減少しましたが、森林資源を循環利用した原木シイタケ栽培などの原木利用のほか、木炭の生産、家畜敷料、建築用材として利用し、水源涵養機能を維持しています。



棚田

水路

ため池

棚田

鉄穴残丘

堆肥施用

稲わら、山野草

資源循環型農業

牛糞堆肥

飼料・敷料

コエグロ

ため池

農地の利用

牛ふんや山草による堆きゅう肥を施用して土づくりを行い、現在、仁多米が生産されています。また、和牛の産地として「奥出雲和牛」の飼養管理技術や繁殖基盤を受け継ぎ耕畜連携の農業が営まれています。



奥出雲和牛

世界農業遺産 (GIAHS) とは

GIAHS: Globally Important Agricultural Heritage Systems

世界農業遺産とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった、世界的に重要な伝統的な農林水産業を営む地域(農林水産業システム)であり、国際連合食糧農業機関(FAO)により認定されます。



Food and Agriculture
Organization of the
United Nations

Globally Important
AGRICULTURAL
HERITAGE
Systems



国内の世界農業遺産 認定地域

(2025年8月末時点)



島根県

【位置】

島根県南東部に位置する標高約250~700mの中山間地域

【農業データ】

農業経営体1,311経営体、農業従事者数2,970人、経営耕地面積2,014ha(R2 農林業センサス)



奥出雲町農業遺産推進協議会

事務局: 奥出雲町役場 農業振興課

〒699-1832 島根県仁多郡奥出雲町横田1037 TEL.0854-52-2679

奥出雲町 HP
YouTube
動画配信中▶



世界農業遺産認定記念シンポジウム

御 来 賓 芳 名 簿

(順不同、敬称略)

衆議院議員 亀井亜紀子	御代理 秘書	桑本 耕平
奥出雲町最高名誉顧問		堀 泰典
島根県	知事	丸山 達也
島根県議会	議員	絲原 徳康
農林水産省農村振興局農村政策部 鳥獣対策・農村環境課農村環境対策室	室長	吉見 友弘
農林水産省中国四国農政局農村振興部	部長	山田 美紀
農林水産省中国四国農政局島根県拠点	地方参事官	杉山 勇樹
島根県農林水産部	部長	山本 拓樹
島根県東部農林水産振興センター	所長	原 幸生
農林水産省中国四国農政局農村振興部農村環境課	課長	三田 康祐
農林水産省中国四国農政局農村振興部農村環境課	環境保全官	佐々木伸行
農林水産省中国四国農政局島根県拠点	総括農政推進官	福田 英昭
島根県農林水産部農山漁村振興課	課長	原 健雄
島根県農林水産部農山漁村振興課	調整監	木村 佳之
島根県東部農林水産振興センター雲南事務所	農業部長	藤井 正章
雲南市長	御代理 農林振興部長	田部 公利
松江市長	御代理 産業経済部次長	恩田 敏子
出雲市議会	議長	伊藤 繁満
安来市長	御代理 農林水産部長	宮本 俊幸
飯南町	副町長	曾田 卓文
庄原市長		八谷 恭介
元奥出雲町長		勝田 康則
前奥出雲町議会議長		景山 利則
元奥出雲町議会議長		藤原 充博
元奥出雲町副町長		藤原 努
元横田町助役		山内 博文
前奥出雲町教育長		松田 武彦
元奥出雲町教育長		塔村 俊介

奥出雲町議会	議長	石原 武志
奥出雲町議会	副議長	小田川謙一
奥出雲町議会	議員	大垣 照子
奥出雲町議会	議員	糸原 壽之
奥出雲町議会	議員	糸原 文昭
奥出雲町議会	議員	北村 千寿
奥出雲町議会	議員	高橋恵美子
奥出雲町議会	議員	内田 隆穂
奥出雲町議会	議員	内田 圭子
奥出雲町議会	議員	落合 孝行
元奥出雲町議会議員		村尾 明利
元奥出雲町議会議員		土屋 武雄
元奥出雲町議会議員		松崎 正芳
元奥出雲町議会議員		内田 正男
元奥出雲町議会議員		山根 里美
奥出雲町監査委員会	代表監査委員	谷尻 一徳
奥出雲町教育委員会	教育長職務代理者	福田 充雄
奥出雲町教育委員会	委員	谷尻 圭子
奥出雲町教育委員会	委員	松崎百合子
奥出雲町教育委員会	社会教育委員	植田 泰正
奥出雲町農業委員会	会長	金倉 弘美
奥出雲町農業委員会	会長職務代理	安部 傭造
奥出雲町農業委員会	農業振興部会会長	大坂 茂
奥出雲町農業委員会	農業委員	石原 隆幸
奥出雲町農業委員会	農業委員	藤原 寿成
奥出雲町農業委員会	農業委員	永濱 孝之
奥出雲町農業委員会	農業委員	和久利 勝
奥出雲町農業委員会	農業委員	和久利 健
奥出雲町農業委員会	農地利用最適化推進委員	藤井 卓
奥出雲町農業委員会	農地利用最適化推進委員	森合 健一
奥出雲町農業委員会	農地利用最適化推進委員	藤原 修
奥出雲町農業委員会	農地利用最適化推進委員	浅野 保男
奥出雲町農業委員会	農地利用最適化推進委員	川西 雄二
奥出雲町農業委員会	農地利用最適化推進委員	堀尾 敏久
奥出雲町農業委員会	農地利用最適化推進委員	松島 昭夫
奥出雲町農業委員会	農地利用最適化推進委員	原田 二郎

奥出雲町土地改良区	理事長	村尾 明利
奥出雲町自治会長会連合会	会長	石原 一志
奥出雲町自治会長会連合会	副会長	景山 明
奥出雲町自治会長会連合会		内田 吉彦
日刀保たたら	村下	堀尾 薫
奥出雲町文化財保護専門委員会	会長	福田 充雄
奥出雲町文化財保護専門委員会	副会長	田部 英年
島根大学	副学長	松本 眞悟
島根大学	教育学部 講師	ダスティン キッド
島根県立横田高等学校	校長	安食 英典
横田中学校	校長	山根 斉浩
布勢小学校	校長	長谷川勝一
三成小学校	校長	三島 啓介
阿井小学校	校長	桑山 悟
横田小学校	校長	千原 一弘
山陰合同銀行三成支店	支店長	嘉藤 博幸
しまね信用金庫仁多支店・横田支店	支店長	松島 禎
島根県農業協同組合横田支店	支店長	若槻 郁美
八代郵便局	局長	山田 賢次
仁多郵便局	局長	渡部 豊
亀嵩郵便局	局長	松島 満
阿井郵便局	局長	小山 和志
三沢郵便局	局長	白根 裕文
鳥上郵便局	局長	木村 雄治
横田郵便局	局長	日野 幸夫
八川郵便局	局長	金谷 昭博
馬木郵便局	局長	内田 利治
島根県森林組合連合会	代表理事会長	絲原 徳康
奥出雲町商工会	会長	植田 良二
奥出雲町商工会	副会長	内田 功一
奥出雲町商工会	副会長	三澤 将太
島根県農業協同組合	代表理事組合長	竹下 克美
島根県農業協同組合雲南地区本部	常務理事本部長	源 之美
島根県農業協同組合雲南地区本部	理事	岩田 孝史
島根県農業共済組合	組合長理事	堀江 眞
島根県農業共済組合	理事	藤原 久

奥出雲町酒米生産改良組合	組合長	石原 吉徳
奥出雲町もち米生産組合	組合長	村尾 明利
奥出雲町水稻採種組合	組合長	八澤 芳則
奥出雲町和牛改良組合	組合長	金倉 弘美
奥出雲町野菜生産組合	組合長	村尾 明利
奥出雲町ぶどう生産者組合	組合長	内田 康秋
奥出雲エゴマの会	会長	内田 正男
奥出雲町自然薯生産組合	会長 御代理	川角 久志
奥出雲町認定農業者連絡協議会	会長	安部 備造
奥出雲町集落営農組織連絡協議会	会長	安部 備造
奥出雲町有害鳥獣被害対策協議会	会長	金倉 弘美
雲南地区交通安全協会 仁多ブロック協議会	会長	川角 邦生
奥出雲町連合婦人会	会長	石原千賀子
島根県立横田高等学校稲陵会	会長	石原 肇
仁多ライオンズクラブ	会長	渡部 豊
横田ライオンズクラブ	会長	大谷 誠二
横田ブラザーズクラブ	会長	松原 康夫
仁多郡遺族連合会	会長	石原 道夫
奥出雲多根自然博物館	館長	宇田川和義
関西奥出雲会	会長	荒木 英志
瀬戸内奥出雲会	会長	野村 裕教
奥出雲町建設業協会	会長	大谷 誠二
一般社団法人 仁多地区建設業協会	会長	佐藤 和彦
有限会社絲原	代表取締役社長	絲原 丈嗣
奥出雲椎茸株式会社	事業部長	伊藤誠太良
東洋製鉄株式会社出雲仁多工場	工場長	武田 健司
株式会社ベッセル島根工場	取締役工場長	米澤 友章
株式会社中電工 雲南営業所	所長	船越 州平
アクアシステム株式会社 奥出雲営業所	所長	野尻 薫
専門学校島根ITデザインカレッジ		山中 崇史
日刀保たたら	村下養成員	嵐谷 康平
株式会社山陰放送	島根支社長	原 秀俊
山陰中央新報社	雲南支局	景山 達登
株式会社奥出雲振興	副統括	藤本 直人
奥出雲仁多米株式会社	本部長	藤井 健史
奥出雲交通株式会社	代表取締役常務	森山 孝雄

祝！**世界農業
遺産認定****「たたら製鉄を再適用した
奥出雲地域の持続可能な水管理
及び農林畜産システム」****奥出雲町観光新聞****第14号
令和7年11月発行**発行元
一般社団法人 奥出雲町観光協会
〒699-1511
島根県仁多郡奥出雲町三成641-22
TEL:0854-54-2260**奥出雲の農業システムの特徴**

当地域は中国山地の山間に位置し、かつて砂鉄を採掘した跡地を棚田に造成し、砂鉄採掘に用いた水路やため池を農業用に再利用し、伝統的な水管理の知識、共同で維持管理する水路組合による農業慣習を受け継ぐことにより、今日、棚田において良質な仁多米を生産し、独特な棚田景観を見ることができます。

- (1) 砂鉄鉱山を起源とする棚田と水路網の継承
- (2) 稲作、和牛、森林利用による複合的農業（仁多米、奥出雲和牛、ソバ、シイタケ等）
- (3) 地域資源を循環利用する農林畜産業（耕畜連携の循環型農業、森林の循環利用）

**ジアス
世界農業遺産(GIAHS)とは**

GIAHS: Globally Important Agricultural Heritage Systems

世界農業遺産とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった、世界的に重要な伝統的な農林水産業を営む地域（農林水産業システム）であり、国際連合食糧農業機関(FAO)により認定されます。

**国内の世界農業遺産
認定地域**
(2025年8月末時点)



okuizumo

Osusume Spot

世界農業遺産

資料館
でみる

奥出雲たたらと刀剣館

奥出雲町のたたら製鉄について総合的に展示・紹介している施設。実物大の「たたら炉断面模型」、体験できる展示である、たたら吹きで使われた「吹子の実物模型(3種類)」なども必見です。

住所：島根県仁多郡奥出雲町横田 1380-1
TEL：0854-52-2770



可部屋集成館 / 櫻井家住宅・庭園

たたら製鉄を営んでいた櫻井家の歴史、江戸期から伝わる美術工芸品、歴史資料を展示した歴史資料館です。また松平不昧公が「岩浪」と命名した滝のある庭園も美しく、周囲の景観と共に秋の紅葉スポットとしても有名です。

住所：島根県仁多郡奥出雲町上阿井 1655
TEL：0854-56-0800



絲原記念館 / 絲原家住宅・庭園

たたら製鉄を営んでいた絲原家の歴史を紹介する資料館です。庭園もあり、秋になると紅葉スポットとして人気があります。

住所：島根県仁多郡奥出雲町大谷 856
TEL：0854-52-0151

ガイド付き
プランたたらと刀剣館ガイドと
ミニミニたたら体験

奥出雲たたらと刀剣館で、たたらガイドによる館内案内の後に、ミニミニたたら体験ができます。

ミニミニたたら体験とは…

たたら仕組を現代風にアレンジした砂鉄を使って小さな鉄の玉を作る体験です。
できた鉄の玉は記念にお持ち帰りできます。

館内ガイド 5,000 円と
体験者 1 人につき 400 円

棚田
をみる

奥出雲地域はかつて、たたら製鉄の原料である砂鉄を採取するため「鉄穴流し」という採掘技術で山々を切り崩してきましたが、その跡地は放置することなく水路やため池を再利用しながら棚田を造成し、今日の農業基盤を作りあげてきました。日本に数多くある棚田は山の斜面を利用して棚田が造られたものですが、奥出雲地域の棚田は、たたら製鉄の歴史の中で砂鉄採掘跡地に形成された点で、棚田の成り立ちが大きく異なります。展望台から棚田をみることができます。

福頼棚田

山と山に挟まれた細長い土地に列状に家が続き福頼集落から、家並みの背後にある坂を登っていくと、かつて脊梁山地の頂上であった場所が大規模に切り崩された台地状の地形があり、そこに広大な棚田が開かれている景観が目に入ります。家よりかなり高い位置に棚田があることから、この田んぼを地元の方は「空田(そらだ)」と呼んでいます。そして、その棚田をさらによく見ると、不思議な小山が点在しており、独特な棚田景観の大きな特徴の一つとなっています。また、棚田から南側に向かうと、切り崩され拓かれた棚田と自然の形状を残す山地の境目に切羽(きりば)と呼ばれる崖があり、この上に福頼棚田展望台があります。展望台から眺める広大な棚田景観は圧倒的です。

DATA エリア：〒699-1802 奥出雲町大呂周辺
展望台：あり(福頼棚田展望台)
〒699-1802 奥出雲町大呂 1411
駐車場：あり(3台程度駐車可)

ガイド付き
プラン

福頼棚田めぐりと仁多米おにぎりの試食

福頼棚田の横を歩きながら、福頼で生まれ育った「福頼の景観を守る会」のみなさんから、たたら製鉄と奥出雲の農業についてお話が聞けます。展望台では、福頼棚田の絶景を見ながら、この地で育った仁多米のおにぎりの試食ができます。※積雪時、要相談
料金：5,000円 / 1グループ(ガイド1名につき20名)



原口鉄穴残丘

稲原地区原口集落には、九つの鉄穴残丘があります。鉄穴流しが行われた場所は、自然地形とは異なる特徴を持っており、その特徴的なものが、棚田の中にぽつぽつと見える不思議な小山「鉄穴残丘(かんざんきゅう)」です。この不思議な小山は、鉄穴流しの際に、鎮守の社や墓地などのある神聖な場所として、そのまま前らずに残したもので、奥出雲で「たたら製鉄」が盛んだったことを証明する大地の記録であり、奥出雲の特異な景観と言えます。

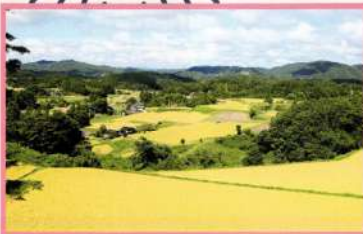
DATA エリア：〒699-1821 奥出雲町稲原周辺
展望台：なし 駐車場：なし

追谷棚田

追谷集落は、かつて、たたら製鉄の経営者である鉄師として隆盛を極めたト藏家(ばくらけ)の本拠地があり、往時の繁栄を伝える文化遺産が随所に残っています。集落を少し奥にはいったところにある綿打公園は、地元の方によってつくられた展望台が設置されており、ここから山に挟まれた谷の中にたたら製鉄由来の棚田が広がる美しい農村風景を一望することができます。ライトアップイベントも開催されています。

DATA エリア：〒699-1801 奥出雲町竹崎周辺 展望台：あり
〒699-1801 奥出雲町竹崎 870 駐車場：あり(約 250m 先) 10 台程度駐車可

棚田案内情報はこちら



町 奥出雲町を巡ろう！



奥出雲和牛が 食べられるお店

すきやき、ステーキなど、
自然の中で丁寧に育てられた、風味豊かな味わいをたのしめ
ます。とろけるような味わいをご堪能ください。

玉峰山荘 レストラン 櫻

所在地：〒699-1701

島根県仁多郡奥出雲町亀高3609-1

電話番号：0854-57-0800



仁多米おにぎりが食べられるお店

奥出雲町を訪れたら、ぜひ食べてもらいたいのが奥出雲町を代表するブランド米「仁多米」。2024
年米・食味分析鑑定コンクール国際大会で金賞を受賞し、これまで、同コンクールで14回の金賞を
受賞している実績のあるお米です！仁多米の「つや」「香り」「甘み」をお楽しみください！



扇屋そば

●仁多郡奥出雲町郡 340
(JR 亀高駅内)
☎0854-57-0034



鬼蕎麦

●仁多郡奥出雲町三成
1415-27
☎0854-54-2101



おおきいおにぎり
「ビックリ鬼ぎり」も人気です！

鬼の舌震亭

●仁多郡奥出雲町三成
1417-6
☎0854-54-1114



高原そば 壺心

●仁多郡奥出雲町八川
2965-6
☎0854-52-0543



純そば 一風庵

●仁多郡奥出雲町下横田
89-2
☎0854-52-9870



姫のそば ゆかり庵

●仁多郡奥出雲町稲原 2128-1
(稲田神社境内内)
☎0854-52-2560



まいもんや居酒屋 味奈里

●仁多郡奥出雲町三成 260
☎0854-54-1076



道の駅奥出雲 おろちループ

●仁多郡奥出雲町八川 2500-294
☎0854-52-3111



八川そば

●仁多郡奥出雲町八川 99-1
☎0854-52-1513



山県そば ※平日のみ

●仁多郡奥出雲町大呂 515
☎0854-52-1149



横田蔵市 ※購入のみ

●仁多郡奥出雲町下横田 84
☎0854-52-3300



道の駅酒蔵 奥出雲交流館

●仁多郡奥出雲町亀高 1380-1
☎0854-57-0888



堀之内

●仁多郡奥出雲町大谷 854
☎0854-52-0151



自社栽培しているハデ干し米
「姫ゆかり」を提供しています！



そばが食べられるお店



そばマップは
こちら→



ツアーに
参加してみる

奥出雲町観光協会ではテーマごとにツアーを企画しています。
世界農業遺産の町 奥出雲町をガイドさんと巡るツアーを作りました!

A
コース

ガイドと行く! マイカー & 木次線 世界農業遺産コース

Point

ガイドと行く! マイカー & 木次線 世界農業遺産コース



行程

8:30
奥出雲町観光協会にて受付
予約確認と詳細の説明等を行います。
8:45
～ガイドが先導～
マイカー
9:15 ~ 9:45 羽内谷鉾山鉄穴流し本場
～ガイドが先導～
マイカー
10:00 ~ 11:00 追谷棚田
～ガイドが先導～
マイカー
11:20 ~ 12:30 亀嵩温泉玉峰山荘(昼食)
※マイカーは玉峰山荘に停めてください。
専用車
12:42 亀嵩駅
JR木次線乗車・スイッチバック区間
13:56 JR三井野原駅
専用車
15:00 玉峰山荘



おすすめポイント

- ①ガイドが羽内谷鉄穴流し本場や棚田を案内します。
- ②玉峰山荘の昼食はたたらが生んだ食材(仁多米・和牛・蕎麦)を使ったメニューです。
※写真はイメージです
- ③JR木次線に乗って「スイッチバック」体験! 全国でも珍しい「三段式スイッチバック」が体験できます。
- ④たたら製鉄の歴史と仕組みを紹介する「奥出雲たたらと刀剣館」の入場料込みです。
- ⑤奥出雲町観光協会会員施設で使える「奥出雲町お得券(500円)」をお1人様につき1枚進呈!

詳細

料金: 大人(中学生以上) 5,000円
小人A(大人と同食) 4,600円
小人B(お子様ランチ) 2,500円
期間: 令和7年9月18日(木) ~ 12月19日(金)
の間の木曜日と金曜日
(毎月、第2木曜日を除く)
※但し助成金が無くなり次第終了
定員: 各班6名(乗用車3台程度)
最少催行人数: 各班2名

※奥出雲たたらと刀剣館の入場券も料金に含まれています。
玉峰山荘到着後、ご自由にお立ち寄りください。

B
コース

ガイドと行く! マイカー & 木次線 世界農業遺産コース

Point

ガイドが案内する遺産由来の場所 ~ 羽内谷鉾山鉄穴流し本場と追谷棚田 ~



行程

10:30
奥出雲町観光協会にて受付
予約確認と詳細の説明等を行います。
10:58 出雲三成駅
JR木次線乗車
11:20 出雲横田駅
12:00 出雲横田駅
JR木次線乗車
12:22 出雲三成駅着
マイカー
12:30 ~ 14:10 絲原記念館(堀之内)にて
昼食・絲原記念館入場
14:20 奥出雲町観光協会集合
14:30 ~
～ガイドが先導～
マイカー
15:00 ~ 15:30 羽内谷鉾山鉄穴流し本場
～ガイドが先導～
マイカー
15:45 ~ 16:45 追谷棚田 随時解散



おすすめポイント

- ①松江藩鉄師頭取として栄えた絲原家に伝わるたたら製鉄の資料がご覧いただけます。
- ②オープンしたての絲原記念館「堀之内」で仁多米おにぎりの昼食をお楽しみいただけます。
- ③ガイドが羽内谷鉄穴流し本場や追谷棚田を案内します。
- ④奥出雲町観光協会会員施設で使える「奥出雲町お得券(500円)」をお1人様につき1枚進呈!

詳細

料金: 大人(中学生以上) 3,000円
小人 2,700円
期間: 令和7年10月10日(金) ~ 12月19日(金)
の間の木曜日と金曜日
※但し助成金が無くなり次第終了
定員: 各班6名(乗用車3台程度)
最少催行人数: 各班2名

世界農業遺産

Globally
Important
Agricultural
Heritage
Systems

農林水産省

世界農業遺産とは

世界農業遺産（GIAHS）とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった、世界的に重要な伝統的農林水産業を営む地域（農林水産業システム）であり、国際連合食糧農業機関（FAO）により認定されます。

世界農業遺産認定基準

申請地域は、世界的な重要性、申請地域の特徴（FAOが定める5つの認定基準）及び保全計画^{（※1）}に基づき評価されます。

【申請地域の特徴を評価する5つの認定基準】

1 食料及び生計の保障

地域コミュニティの食料及び生計の保障に貢献すること。

2 農業生物多様性

食料及び農林水産業にとって世界（我が国）において重要な生物多様性及び遺伝資源が豊富であること。

3 地域の伝統的な知識システム

「地域の貴重で伝統的な知識及び慣習」、「独創的な適応技術」及び「生物相、土地、水等の農林水産業を支える自然資源の管理システム」を維持していること。

4 文化、価値観及び社会組織

地域を特徴付ける文化的アイデンティティや土地のユニークさが認められ、資源管理や食料生産に関連した社会組織、価値観及び文化的慣習が存在すること。

5 ランドスケープ^{（※2）}及びシースケープ^{（※3）}の特徴

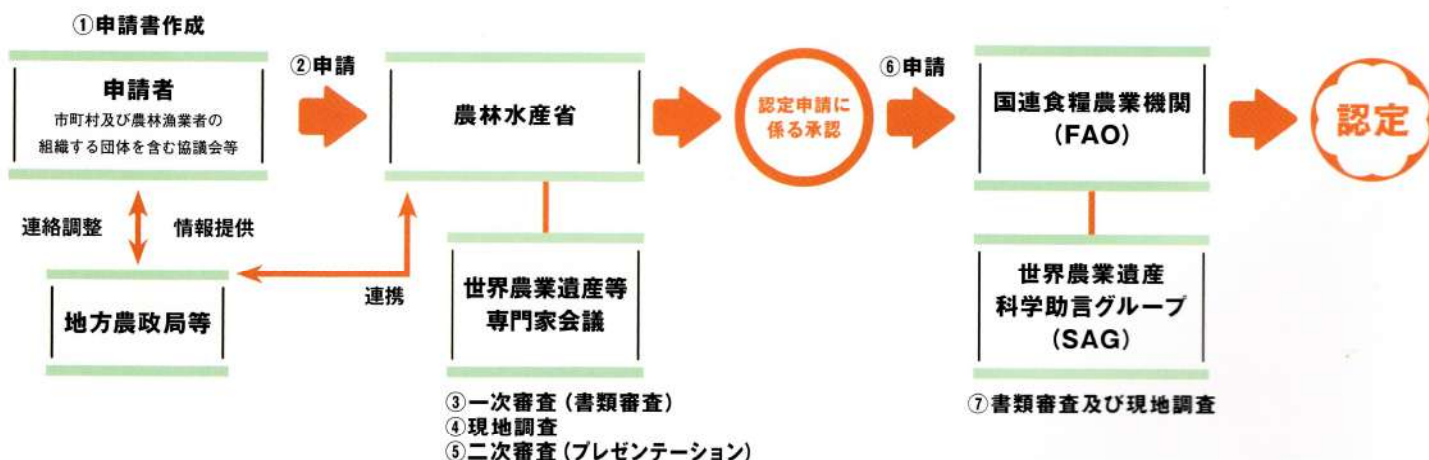
長年にわたる人間と自然との相互作用によって発達するとともに、安定化し、緩やかに進化してきたランドスケープやシースケープを有すること。

（※1）保全計画：申請地域を維持・保全及び活用していくための計画書。

（※2）ランドスケープ：土地の上に農林水産業の営みを展開し、それが呈する一つの地域的まとまり。

（※3）シースケープ：里海であり、沿岸海域で行われる漁業や養殖業等によって形成されるもの。

申請から認定まで



》次世代への継承に向けた活動の様子《

日本国内の認定地域では、世界農業遺産を将来にわたり維持していくため、農林水産業への理解を促進し、担い手を育成するための様々な活動に取り組んでいます。その一例を紹介します。

宮城県大崎地域



おおさき生きものクラブ



おおさき生きものクラブ活動の様子

宮城県大崎地域では、湿地を水田に転換利用し、「水」の確保と調整に様々な知恵や工夫を重ねながら稲作を中心とした水田農業を発展させてきました。

当地域では、行政と地域の6つのNPO法人などが連携し、地域の自然や生きものと楽しみながら触れ合う中で、子供達の環境保全意識を高めるため「おおさき生きものクラブ」の活動が行われています。

この活動には、農家子弟に限らない地域全体からの多様な子供達が参加しています。また、単に生きものを調査するだけでなく、農業システムを支える水管理、屋敷林「居久根（いぐね）」の保全管理、奥山での間伐などの人の営みによって二次的自然が維持されていることへの理解を深め、さらに自ら発信することができ「翻訳者（インタープリター）」の育成を目指しています。

静岡県掛川周辺地域

静岡県の特産品であるお茶の栽培が、「茶草場農法」という独自の伝統農法で行われています。当地域では「茶草場」と呼ばれるススキやササなどが自生する草場が点在しており、この草を刈り取り、乾燥させて、茶畑の畝の間に敷きます。この「茶草場農法」は、



お茶の淹れ方講座の様子



手もみ製法研究会

傾斜地茶園の土壌条件を良好に保つだけでなく、土壌の流出を防ぎ、お茶の品質においても良い影響を及ぼすとされています。

県内では茶業者や日本茶インストラクター、農協などが幼稚園、小学校等でお茶の生産に関する授業やお茶の淹れ方講座を行い、若年層への茶文化の普及活動を行っています。

もともと当地域は歴史ある茶産地で、消費地でもあることから、講座への参加者は多くありましたが、2016年度に静岡県は「小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する条例」を制定し、教育現場への静岡茶愛飲の機会を提供しています。

2017年度からは静岡茶愛飲促進事業を県教育委員会と連携して行っており、家庭や地域の協力も得ながら、さらなる静岡茶愛飲の定着に努めています。

現在県内には茶手もみの流派が8流派あり、それぞれ研究会を開き技術継承に努めています。また、これらの手もみ製法研究会は県内で数多く開催されているお茶関連イベントに出展し、一般消費者向けの体験会を行っている他、小中学校での技術披露や体験活動を通じて、子供達へ技術を伝えています。

宮崎県高千穂郷・椎葉山地域

宮崎県高千穂郷・椎葉山地域は九州山地を構成する山々に囲まれた険しい山間地であり、今でも様々な神話や伝承が息づいています。森林に囲まれ平地が極めて少ない厳しい環境下で、人々は努力と工夫を重ね、特徴的かつ持続的な山間地農林業複合システムを構築しています。



神楽を舞う子供の様子



小中学校での出前授業

当地域のコミュニティでは伝統文化「神楽」を通じて絆を強めています。神楽は、日本神話と結びついた五穀豊穡と生活の安定を祈る集落の祭りで、神々への祈りを舞に込めて800年以上継承してきました。神楽には子供たちが参加する演目もあり、子供たちは大人の舞手に教わりながら練習をし、本番に臨みます。

地域の行事に参加することで、次の世代に、自然に伝統文化を継承する仕組みがこの地域には根付いています。

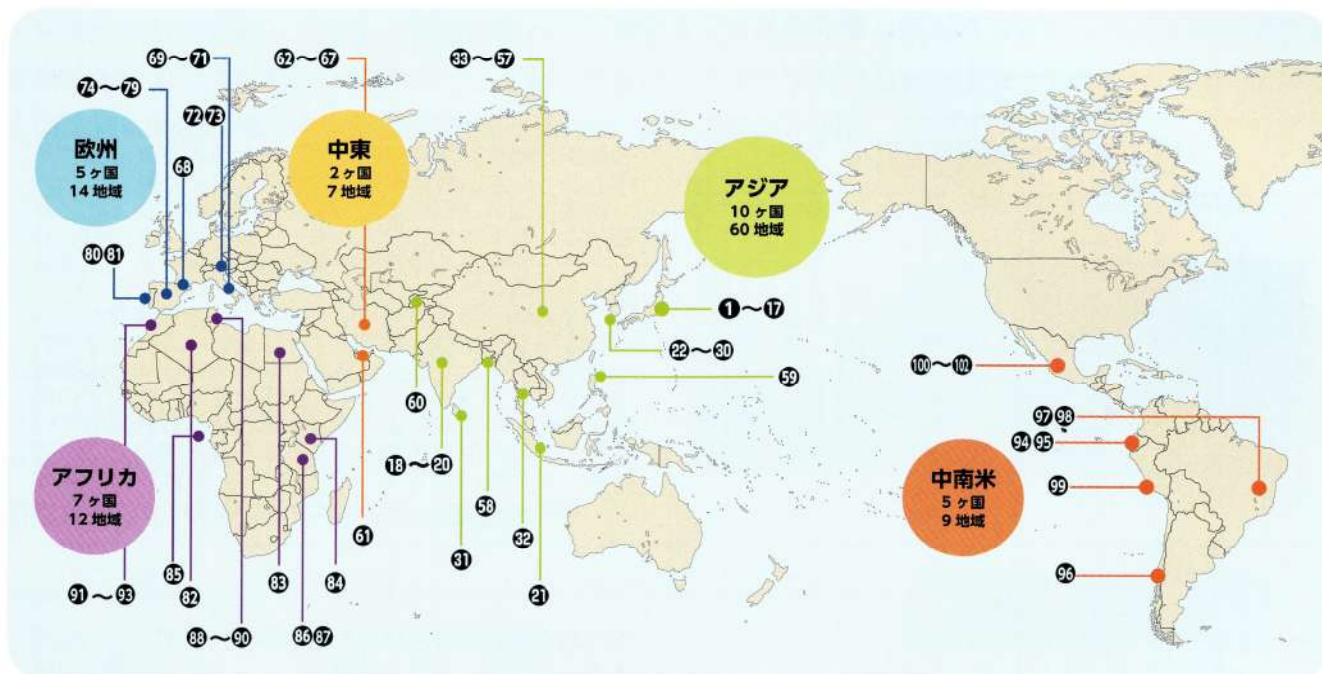
また、当地域では、地元の高校生が、世界農業遺産について学びながら、地域の魅力や課題を発見していく次世代人材育成プログラム「GIAHSアカデミー」の活動が行われています。

地元農家を取材し、学んだ内容を地元誌「高千穂郷食べる通信」や地域内の小中学校に出前授業で地域内外へ広く発信をしています。

平成29年から始まった「GIAHSアカデミー」の取組は、当初高千穂郷の高校生のみの参加でしたが、令和2年度からは宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校も加わり、国内外の認定地域や関係機関と連携して活動しています。

世界農業遺産認定地域

世界で29ヶ国102地域、日本では17地域が認定されています（令和7年10月現在）。



国名	農林水産システムの名前	認定年
日本 (17地域)	① トキと共生する佐渡の里山	2011
	② 能登の里山里海	2011
	③ 静岡の茶草場農法	2013
	④ 阿蘇の草原の維持と持続的農業	2013
	⑤ クマガイとため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環	2013
	⑥ 清流長良川の鮎・里川における人と鮎のつながり	2015
	⑦ みなべ・田辺の梅システム	2015
	⑧ 高千穂郷・椎葉山の山間地農林業複合システム	2015
	⑨ 持続可能な水田農業を支える「大崎耕土」の伝統的水管理システム	2017
	⑩ 静岡水わさびの伝統栽培・発祥の地が伝える人とわさびの歴史	2018
	⑪ にし阿波の傾斜地農耕システム	2018
	⑫ 岐阜地域の農地適応した果樹農業システム	2022
	⑬ 森・里・湖（うみ）に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム	2022
	⑭ 人と牛が共生する美濃地域の伝統的旧馬牛飼育システム	2023
	⑮ 大都市近郊に今も息づく武蔵野の落ち葉堆肥農法	2023
	⑯ たたら製鉄を再適用した奥出雲地域の持続可能な水管理及び農林畜産システム	2025
	⑰ 有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム	2025
インド (3地域)	⑱ カシミールのサフラン農業	2011
	⑲ コラブットの伝統農業	2012
	⑳ 海拔以下でのグッタナド農業システム	2013
	㉑ パリ島カラガスム農におけるサラックのアグロフォレストリー・システム	2024
インドネシア (9地域)	㉒ 青山島のグッドジャン棚田灌漑管理システム	2014
	㉓ 泗水島の石垣農業システム	2014
	㉔ フラゲ村における伝統的ハドン茶農業システム	2017
	㉕ 錦山（クムサン）の伝統的な高麗人参農業システム	2018
	㉖ 澤陽の竹林農業システム	2020
	㉗ 塩津江（ソムジンガン）河口のソントゥル（手網）シジミ漁システム	2023
	㉘ 泗水の海女漁業システム	2023
	㉙ 只族海峡の竹防風漁業	2025
	㉚ 爵珍金剛山の山地農業システム	2025
	㉛ スリランカ乾燥地帯における連続型ため池システム	2017
	㉜ タレー・ノイ湿地帯の水牛牧畜・農業生態系システム	2022
	㉝ 青田の水田養魚	2005
中国 (25地域)	㉞ ハニ族の棚田	2010
	㉟ 万年の伝統稲作	2010
	㊱ トン族の稲作・養魚・養鶏システム	2011
	㊲ アオハンの乾燥地農業	2012
	㊳ ブーアルの伝統的茶農業	2012
	㊴ 会稽山の古代中国トレイ	2013
	㊵ 宣化のぶどう栽培の都市農業遺産	2013
	㊶ 興化の蕭上げ畑農業システム	2014
	㊷ 佳県の伝統的ナツメ農園	2014
	㊸ 福州のジャスミン・茶栽培システム	2014
	㊹ ジャガナの農林畜産複合システム	2017
	㊺ 湖州の桑基鱼塘システム	2017
	㊻ 夏津における伝統的桑栽培システム	2018
	㊼ 中国の南部山岳丘陵地域における棚田システム	2018
	㊽ 沙県の乾燥地における石垣段畑システム	2022
	㊾ 安溪鉄観音の茶文化システム	2022
	㊿ 内モンゴルにおけるアルホルチンの草原放牧システム	2022
	㊽ 浙江省慶元県の森林とキノコ栽培の共生システム	2022
	㊾ 浙江省仙居県の古ヤマモミ複合栽培システム	2023

国名	農林水産システムの名前	認定年
中国 (25地域) 続き	㊿ 安徽省銅陵における白生栽培システム	2023
	㊽ 河北省冀城における伝統的なクワのエキ栽培システム	2023
	㊾ 浙江省徳清県の淡水真珠養殖システム	2025
	㊿ 福建省福鼎市の白茶文化システム	2025
	㊽ 甘肅省華蘭県什川の古梨園システム	2025
バングラデシュ	㊿ フローティングガーデン農法	2015
フィリピン	㊿ イフガオの棚田	2011
タジキスタン	㊿ アルモシ渓谷：山岳条件に適応した統合農牧システム	2025
アラブ首長国連邦	㊿ アル・アイン及びリワフの伝統的ナツメヤシ栽培システム	2015
イラン (6地域)	㊿ カシャーンのカーナート灌漑システム	2014
	㊿ ジョーザン渓谷のブドウ生産システム	2018
	㊿ ソアバードのカーナートによるサフラン栽培システム	2018
	㊿ ファールス州エスタファバーンの伝統的な天スイチジク果樹園システム	2023
	㊿ ハマダーン州トワイセルカンの伝統的クルミ栽培システム	2023
	㊿ ガスヴィーンの伝統的な古代庭園バーグスタン	2023
アンドラ	㊿ アンドラの亜高山帯の牧草地	2023
イタリア (3地域)	㊿ アッシシ・スボレート間丘陵地帯のオリーブ畑	2018
	㊿ ソアヴェの伝統的ブドウ畑	2018
オーストリア (2地域)	㊿ アマルフィのレモン園と段々畑農業システム	2025
	㊿ オーストリア・アルプス山脈のハイミルク（伝統的干し草ミルク）生産システム	2023
スペイン (6地域)	㊿ ニーダーエスターライヒ州グアルトフィアル地方における池での養殖	2024
アセアン (6地域)	㊿ アクサルキアのレーズン生産システム	2017
	㊿ アナーニャの榴生システム	2017
	㊿ オリーブ古代樹農業システム「テリトリオ・セニア」	2018
	㊿ オルタ・デ・バレンシアの歴史的灌漑システム	2019
	㊿ レオン山脈のアグロシルボパストラル・システム	2022
ボルトガル (2地域)	㊿ ランサローテ島のハブレと火山砂の農業システム	2025
	㊿ バローソの農林間放牧システム	2018
アルジェリア	㊿ セルバ丘陵のモンタード農林牧畜システム	2025
エジプト	㊿ ゴートオアシスシステム	2011
ケニア	㊿ シワ・オアシスのナツメヤシ栽培システム	2016
サントメ・プリンシペ	㊿ マサイの牧畜	2011
サントメ・プリンシペ	㊿ サントメ・プリンシペのカカオ・アグロフォレストリー・システム	2024
	㊿ マサイの牧畜	2011
タンザニア (2地域)	㊿ アグロフォレストリーシステム	2011
チュニジア (3地域)	㊿ ガフサのアアシスシステム	2011
	㊿ ジェバ・エル・オリアのテラス庭園	2020
モロッコ (3地域)	㊿ ガル・エル・メル・メルー湖のラムリ農業システム	2020
	㊿ アトラス山脈のアアシスシステム	2011
エクアドル (2地域)	㊿ アイトスアブ・アイトマンズール地域のアルガン農林間放牧システム	2018
	㊿ フィグのクスール：水と土地の社会的管理からなるオアシスと牧畜文化	2022
エクアドル (2地域)	㊿ アマソンのチャクラ・ナボネの先住民が管理する伝統的なアグロフォレストリー・システム	2023
	㊿ アンデスのチャクラ：コタカチ・キチュワ族の先祖から伝わる農業システム	2023
チリ	㊿ チロエ農業	2011
ブラジル (2地域)	㊿ ミナスジェライス州エスピニャン山脈南部の伝統的な農業システム	2020
	㊿ 日隆栽培エルバ・マテ：パラナ州アラウカリア林の伝統的なアグロフォレストリー・システム	2025
ペルー	㊿ アンデス農業	2011
メキシコ (3地域)	㊿ ソチミルコ、トラウアク及びミルパルタの世界遺産地域におけるチナンバ農業	2017
	㊿ イーチ・コール：ユカタン半島マヤ族のミルパ	2022
	㊿ メデバントレ：トラスカラ山岳地帯の先祖伝来の農業システム	2025

※海外の認定地域の農林水産システム名の日本語訳は、FAO 駐日連絡事務所（<https://www.fao.org/japan/highlights/gahs/jp>）から引用しています。

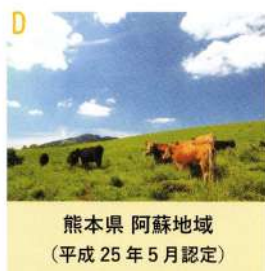
国内の世界農業遺産認定地域

日本は南北に長く、山地が大半を占める国土を有することから、それぞれの土地や気候条件に合った独特な農林水産業が各地で営まれてきました。我が国では、17地域が世界農業遺産に認定されており（令和7年10月現在）、多様で地域性に富む伝統的な農林水産業が受け継がれています。

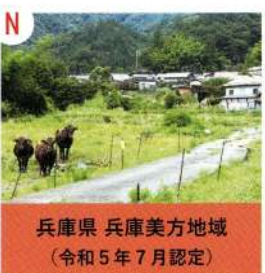
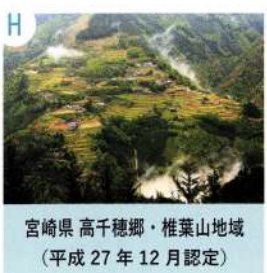
平成23年度認定



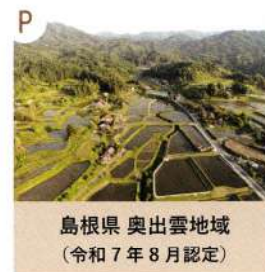
平成25年度認定



平成27年度認定



平成29年度認定



令和7年度認定



平成23年6月認定

新潟県佐渡市

トキと共生する 佐渡の里山

生きものを育む農法を島内の水田で実施し、トキをシンボルとした豊かな生態系を維持する里山と、集落コミュニティを高める多様な農村文化を継承。



佐渡の里山に帰ってきたトキ

佐渡市では、トキとの共生を目指して、多様な生きものが生息できる環境を整えるために、トキの主な餌となるドジョウなどが生息する水田において「生きものを育む農法」に島全体で取り組んでいます。水田の水を抜く中干期にも「江」と呼ばれる深みを設置し、生きものの逃げ場となる水辺をつくるなど、1年を通して生きものが生育できる

環境をつくっています。

このように、生産の効率化だけでなく、環境に配慮し育てられた米は、「朱鷺と暮らす郷」の名称でブランド化され、販売利益の一部をトキの保全活動に充てることで、食と命を育む生きものと共生した持続的な農業が展開されています。



国の重要無形民俗文化財に指定されている「車田植え」

平成23年6月認定

石川県能登地域

能登の里山里海

急傾斜地に広がる棚田や潮風から家屋を守る間垣など独特の景観を有する。江戸時代から続く揚げ浜式製塩法や海女漁などを継承。



「つなぐ棚田遺産」に認定された「白米千枚田」（輪島市白米町）

能登地域には、日本海に面した急傾斜地に広がる「白米千枚田」をはじめとした棚田や、海の強い潮風から家屋を守る間垣と呼ばれる竹の垣根など、日本の農山漁村の原風景ともいわれる独特の景観が見られます。また、伝統的な技術として、「揚げ浜式」と呼ばれる日本で唯一能登にのみ残る製塩法や、女性が素潜りでサザエやアワビを採る

「海女漁」、里山の保全・管理と密接に結びついた「炭焼き」などが受け継がれています。

このほか、豊作豊漁を願い、巨大な灯籠を担いで練り歩く「キリコ祭り」や、田の神を祀る農耕神事「あえのこと」など、農林水産業にまつわる祭礼が能登の各地で行われています。



ユネスコ無形文化遺産に登録されている「あえのこと」



栗ヶ岳の茶文字と茶畑（掛川市）

静岡県掛川市、菊川市、島田市、牧之原市、川根本町の4市1町では、県の特産品であるお茶の栽培を「茶草場（ちゃぐさば）農法」と呼ばれる独自の伝統農法で栽培しています。茶畑の周りに点在する草地（茶草場）からスキなどの草を刈り取って、秋から冬にかけて茶畑に敷く農法で、茶草を敷くことで樹勢が良くなり、美味しいお茶になると言われています。

茶草は茶畑の土壌を豊かにし、土壌流出を防ぐ等の効果から地域の茶栽培に欠かせないものであるとともに、豊稔祈願のお供えとして地域の伝統文化の中にも利用されています。また、茶草を刈り取ることで維持されてきた草地には希少な生物が数多く生息しています。美味しいお茶を作るための農家の取組が同時に豊かな動植物を育てています。

平成25年5月認定

静岡県掛川周辺地域

静岡の茶草場農法

茶畑の周りの草地（茶草場）から草を刈り取り茶畑に敷く伝統的な茶草場農法を継承。草刈りにより維持されてきた草地には、希少な生物が多数生息。



茶草場に生息するカケガワフキバッタは翅が退化し飛ぶことができない地域固有のバッタ

平成25年5月認定

熊本県阿蘇地域

阿蘇の草原の維持と持続的農業

「野焼き」「放牧」「採草」により草原を人が管理することで日本最大級の草原を維持。長年続く草を活用した農業により景観が保持され、希少な動植物が数多く生息。



あか牛の放牧



草原の維持に必要な野焼き

草原は自然のままでは時間とともに森林へ移り変わりますが、阿蘇地域では草原を人が管理し続けることで日本最大級の草原を維持しています。人々は四季を通じて、草を焼く「野焼き」、牛や馬を放つ「放牧」、草を刈る「採草」を中心に草原の管理を行います。阿蘇の野焼きは表面だけを焼くため、土中の植物の種や昆虫に影響がなく、希少な動植物が数多く残っています。

また、元来農業には不向きである酸性で養分の乏しい火山性土壌の土地を長年かけて改良し、涼しい気候風土を活かした米や多様な野菜の生産が行われています。



切り株から萌芽するクヌギとため池（国東市武蔵町）

降水量が少なく、水の確保が困難だった国東（くにさき）半島宇佐地域では、安定的に農業用水を得るために小規模なため池を連携させ、効率的な土地・水利用を行ってきました。周辺にはため池の水をかん養するクヌギ林が随所に存在し、その景観を独特なものにしており、ため池群から供給される用水は水稲や七島イといった水田農業を

支えています。

また、この地域では、クヌギを利用した原木しいたけの栽培が盛んに行われています。クヌギは切り株から15年程で再生することから、この原木しいたけ栽培により森林の新陳代謝が促され、里山の良好な環境と景観の保全につながっています。



約50年ぶりに復活した、晴れた夏の日に砂浜に並べて自然乾燥させる七島イの「浜干し」

平成27年12月認定

岐阜県長良川上中流域

清流長良川の鮎

—里川における人と鮎のつながり—

長良川は、水源かん養林の育成や河川清掃などの人の管理により清流が保たれる「里川」であり、友釣り、鵜飼漁、瀬張り網漁等、鮎の伝統漁法を継承。



1300年前から行われている伝統的な漁法「鵜飼」



無形文化遺産 本美濃紙：長良川水系のきれいな水に育まれ、厳しい要件を満たした手すきの美濃和紙

岐阜県を流れる長良川は、漁業者や市民団体による水源かん養林の育成や河川の清掃など、人が適切に管理することで、資源を保全するとともに良好な環境を生み出し、清流に育まれた漁業、農業、林業などの産業が発達している「里川」です。なかでも、鮎を中心とした内水面漁業が盛んで、鵜飼漁をはじめとした伝統的な漁法が数多く受け継がれ、鮎を使った郷土料理も食文

化として根付いています。

また、清流が保たれることにより、美濃和紙や郡上本染などの水と密接なつながりのある伝統工芸が引き継がれ、長良川の持続的なシステムを育んでいます。



石神梅林（田辺市）

みなべ・田辺地域は、その土地を養分の乏しい礫質の斜面が占めており、斜面にウバメガシなどの薪炭林を残しつつ梅林を開墾して、高品質な梅を生産しています。薪炭林は水源かん養や崩落防止等の機能を保持するとともに、ウバメガシからは堅くて良質な「紀州備長炭」が生産されています。

梅が果実を実らせるために、薪炭

林に生息するニホンミツバチなどが花粉を運ぶ役割を果たしてくれています。ミツバチにとっても、梅はまだ花の少ない2月頃から蜜を提供してくれる貴重な存在であり、両者の間で見事な共生関係が築かれています。地域に住む就業者の7割は梅の産業に関わっており、梅は地域の基幹産業として人々の暮らしを支えています。



自家受粉できない梅とミツバチの共生関係が成立

平成27年12月認定

和歌山県みなべ・田辺地域

みなべ・田辺の梅システム

養分に乏しい斜面の梅林周辺に薪炭林を残し、水源かん養や崩落を防止、薪炭林を活用した紀州備長炭の生産と、ミツバチを受粉に利用した梅栽培。

平成27年12月認定

宮崎県高千穂郷・椎葉山地域

高千穂郷・椎葉山の山間地農林業複合システム

険しく平地が少ない山間地において、針葉樹による木材生産と広葉樹を活用したいけ栽培、和牛や茶の生産、焼畑等を組み合わせた複合経営。



仙人の棚田（椎葉村松尾地区）



現在でも90以上の集落で神楽が奉納されており、人々の暮らしの一部として代々受け継がれている

森林に囲まれ平地が極めて少ない環境下で、人々は針葉樹による木材生産、広葉樹を活用したいけ生産、高品質の和牛生産、茶の生産、棚田での稲作や焼畑等を組み合わせて生計を立ててきました。標高の高い傾斜地で農業用水を確保するために建設された山腹用水路は総延長500kmにも及び、用水供給のほか、斜面を流れ落ちる雨水を

受け排水することで、周囲の集落を災害から守る役割を果たしています。

また、地域に伝わる伝統文化「神楽」は、五穀豊穡などを願う神事の舞踏です。現在もほとんどの集落で神楽が奉納され、厳しい山間地で暮らす人々が生活の安定を願う祈念の場として大切に受け継がれています。



水田と水路、屋敷林「居久根」がっなぐ大崎耕土のランドスケープ

大崎地域は伝統的な稲作地帯ですが、東北の太平洋側に特有の冷たく湿った季節風の「やませ」による冷害や地形的要因による洪水、渇水に長年にわたり悩まされてきました。このため、水を確保するために取水堰、隧道及び潜穴（用排水トンネル）、ため池、用排水網を設けるとともに、地縁組織である「契約講（けいやくこう）」を主体とする組織により、巧みな水管理を支える仕組みが作られました。また、洪水時の遊水地によるしなやかな水管理

や冷害対策のための深水管理、冷たい水を直接水路から引水せずいったん温めて使う「ぬるめ水路」などの農業技術が発達するなど、災害を耐え抜く知恵が現在に受け継がれています。大崎地域には、厳しい農業条件の中で育まれた豊穡を祈る農耕儀礼などの農文化、そして水田や水路、水田の中に浮かぶ森のような屋敷林「居久根（いぐね）」に多様な動植物が存在する豊かな湿地生態系が残されており、独特のランドスケープを形成しています。



水田が支える農業生物多様性

平成30年3月認定

静岡県わさび栽培地域

静岡水わさびの伝統栽培 —発祥の地が伝える人とわさびの歴史—

日本の固有種であるわさびを、沢を開墾して階段状に作ったわさび田で、肥料を極力使わず湧水に含まれる養分で栽培する伝統的な農業を継承。



山間地に階段状に広がるわさび田



わさび田周辺に生息するハコネサンショウウオ

わさびは日本列島で独自の進化を遂げた固有種であり、自生する野生のわさびが日本各地で見られます。当地域では、約400年前の江戸時代初期に世界で初めて栽培が始まり、長い歴史の中で地域に適した数多くの品種・系統と栽培技術が生み出されてきました。農作物の生産が難しい森林に囲まれた環境の中で、山の傾斜に沿って沢を階段状に開墾してわさび田を作り、肥料を極力使わず、豊富な湧水に含まれる養分を利用して高品質

なわさびを生産する技術が発展し、特に、明治25年頃に開発された「壘石式」と称される栽培方式は、生産量を飛躍的に向上させました。

わさび田は、わさびを強い日差しから守るために植栽されたヤマハシノギと相まって、独特の景観を織り成しています。また、緩やかな水の流れは、ハコネサンショウウオなどの希少な生物に生息環境を提供しています。



ツチアゲの様子（つるぎ町貞光）

四国中央部の「にし阿波」と呼ばれる徳島県西部の山間部では、場所によっては斜度40度にもなる急傾斜地で、段々畑のような水平面を形成せずに傾斜地のまま農耕し、風雨などで起こる土の流出を草地で採取した敷き草（カヤ）を畑にすき込むことで最小限に抑え、そば等の雑穀や伝統野菜に山菜、果樹など少量多品目を組み合わせる複合経営により、山間地の環境に適応し

てきました。これが「にし阿波の傾斜地農耕システム」です。

400年以上にもわたり、この農耕システムが継承されてきたことにより、採草地の多様な動植物や焼畑農法の流れを汲む、日本の原風景ともいえる山村景観、保存食への加工や食文化、そして農耕にまつわる伝統行事なども人々の手で守られ継承されています。

平成30年3月認定

徳島県にし阿波地域

にし阿波の 傾斜地農耕システム

急傾斜地にかやをすき込んで土壌流出を防ぎ、独自の農機具を用いて段々畑を作らずに斜面のまま耕作する独特な農法で、在来品種の雑穀など多様な品目を栽培。



そば米雑炊：そばを粉にせず、実のままでいただく当地域独特の郷土料理

令和4年7月認定

山梨県峡東地域

峡東地域の扇状地に適応した 果樹農業システム

扇状地の傾斜地において、土壌や地形等に応じた、ブドウやモモなどの果樹の適地・適作が古くから行われ、独自のブドウの棚式栽培が開発されるなど、現在まで独創的な果樹農業を継承。



モモやスモモの花が咲き乱れる春の風景



我が国固有品種「甲州」ブドウ

峡東地域には、大小様々な扇状地があり、傾斜や起伏、土壌などが異なる条件に適応した果樹栽培が行われてきました。

ブドウやモモ、スモモ、カキなど10品目以上、品種・系統数では300以上の豊富な遺伝資源が受け継がれています。中でも、我が国固有品種である「甲州」は、1300年以上前から栽培されていたとされています。

多雨・湿潤の気象条件に適応し、安定的なブドウ栽培を可能とする棚栽培（甲

州式ブドウ棚）が、峡東地域で約400年前に開発され、疎植・大木仕立ての栽培技術とともに日本各地に普及しています。

こうした技術を伝承しながら、現在は、きめ細かな手作業による高品質な果実や加工品を安定的に生産し、収益性の高い農業を確立しています。

また、ワイン醸造などの果実加工や観光果実園も発展し、様々な文化・祭事とともに世界に誇る特色ある地域を形成しています。



早朝、朝もやの中で漁獲を待つ伝統的なエリ（小型の定置網）

多くの在来魚が生息する琵琶湖の湖辺では、弥生時代以降、人が開発した水田にニゴロブナ等の湖魚が遡上し、そこを繁殖場として利用するようになりました。そして、人は農作業の傍ら、こうした湖魚を捕獲する待ち受け型の漁法を発展させてきました。漁法の代表格はエリ漁です。鎌倉時代には、漁獲の競合に対処するためエリの設置を制限するなど社会的な仕組みも築かれ、現在の資源保全や漁業調整の礎となっています。漁獲された湖魚は、「ふなずし」等の「なれ

ずし」にも加工され、重要な保存食となるほか、客人をもてなす御馳走や祭礼でのお供えとしても用いられてきました。こうした食文化は、漁業や農業を受け継ぐ精神文化的な基盤の醸成に寄与してきました。

また、多様な主体が参画して琵琶湖の水質や生態系を保全する、現代の「環境こだわり農業」や湖魚が産卵のために遡上する「魚のゆりかご水田」、水源林保全にもつながってきています。

令和4年7月認定

滋賀県琵琶湖地域

森・里・湖(うみ)に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム

水田営農との深い関わりの中で発展してきた伝統的な琵琶湖漁業がその中心。“里湖（さとうみ）”とも呼ばれる循環型システムで、千年の歴史を有するエリ漁や独特の食文化を継承。



湖の魚が産卵にやってくる「魚のゆりかご水田」での「生きもの観察会」

令和5年7月認定

兵庫県兵庫美方地域

人と牛が共生する美方地域の伝統的但馬牛飼育システム

400年以上前から牛を大切に飼育し、地域内の血統にこだわった改良を行うことで、独自の但馬牛の血統を保全。但馬牛の飼養は、地域の棚田や草原の生態系の保全に大きく貢献。



但馬牛放牧の様子

美方地域は棚田での稲作と但馬牛の子牛の生産が主であり、但馬牛は400年以上前から、地域の豊富な草を与え、山に放牧し、家族同様に大切にされてきました。現在でも牛を1頭1頭大切に飼育し、稲わらや畔草を牛に、牛ふん堆肥を稲作に利用することにより資源の循環を図っています。また、放牧することによって草原が維持され、地域の多様な生態系の保全に貢献しています。

明治31年（1898）に全国に先駆けて「牛籍簿」が整備され、これが血統登録の基礎となり、全国の和牛改良の先頭に立つ地域となりました。

当地域では全国の黒毛和種でも唯一、地域内産にこだわった改良を続けてきた結果、世界でもここにしかない独自の血統が保全され、日本の黒毛和種の貴重な遺伝資源として大きな役割を果たしています。



全国に先駆けて整備された「牛籍簿」



落ち葉掃きの様子

当地域は、江戸の急速な人口増加に伴う食糧不足を背景に、川越藩が1654年から行った開拓に端を発しています。

水が乏しい台地のうえに、火山灰土のため栄養分が少なく表土が風に飛ばされやすいという、農業を行うには非常に厳しい自然条件を克服するため、見渡す限りの草原に木々を植えて平地に林を作り出し、落ち葉の堆肥利用、土壌飛散防止など複数の機能を持たせた、優れた農村計画による開発が行われました。

この歴史的価値を有する平地林などの土地利用は 現在まで受け継がれ、今も落ち葉堆肥を活用した持続的な農業が続けられているとともに、特徴的な農業景観を生み出しています。

また、管理された平地林はオオタカの繁殖地となっているほか、シュンランやキンランなどの希少植物にも良好な生育環境を提供しています。

令和5年7月認定

埼玉県武蔵野地域

大都市近郊に今も息づく武蔵野の落ち葉堆肥農法

痩せた火山灰の土地に、江戸時代から木々を植えて平地林を育て、落ち葉を使った堆肥で土壌改良を行うことで、安定的な生産を実現。その結果として景観や多様な生物を育むシステムが、今なお継承。



落ち葉堆肥農法でつくった富の川越いも

令和7年8月

島根県奥出雲地域

たたら製鉄を再適用した奥出雲地域の持続可能な水管理及び農林畜産システム

砂鉄鉱山跡地を棚田に再生し、採掘のために導いた水路やため池を再利用するなど、たたら製鉄を背景とした独自の土地利用及び水の利用管理により、稲作や畜産を中心に複合的な農業を営む。



砂鉄採取跡地に拓かれた棚田景観



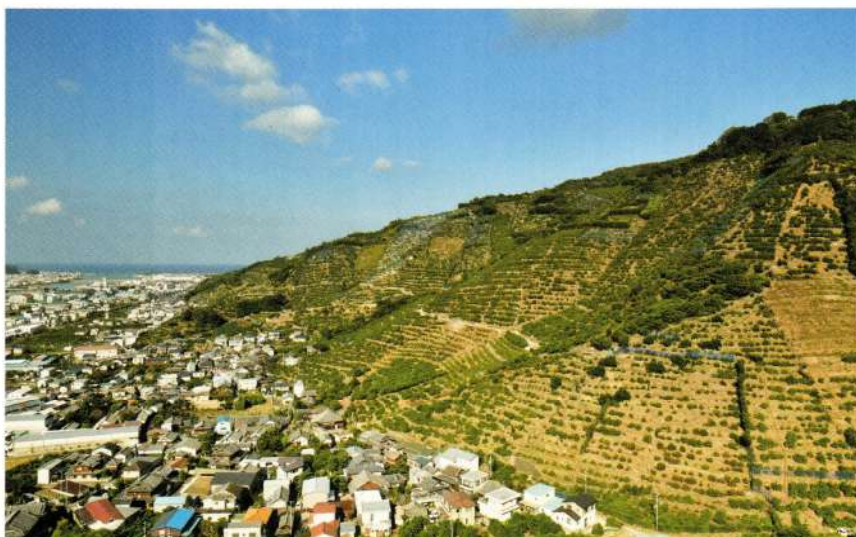
唯一「たたら製鉄」を継承

中国山地の山間にある奥出雲地域は、日本古来の製鉄法「たたら製鉄」の原料である砂鉄を採取するため、鉄穴流し（かなながし）という採掘技術で山々を切り崩し、採掘のために導いた水路やため池を再利用して水田を開発してきました。

かつて運搬や農耕のために飼養された和牛は、現在、肉用牛として生産され、牛ふんや山草を堆肥化して土づくりを行い、良質な「仁多米」を生産しています。ま

た、約30年周期で伐採してきた薪炭林はシイタケの栽培や木炭の生産などに活用され、森林や草地に棲むハナバチ類は遺伝資源である在来ソバの受粉を促し、「出雲そば」のルーツとなり、食文化が色濃く残っています。

棚田には墓地や神木を祀った小山「鉄穴残丘（かなざんきゅう）」が点在し、神（自然）を畏れ祖先を敬う日本の宗教観を象徴する農業景観を形成しています。



有田・下津地域のランドスケープ

有田・下津地域では、400年以上前からみかん栽培のために石積み階段園を築き上げてきました。17世紀中ごろには、より有利な販売ができるよう日本初のみかん共同出荷組織「蜜柑方」（みかんがた）が組織されました。こうした地域の取り組みにより、みかん栽培は日本で初めて生計の手段へと発展を遂げ、現在に至るまで海岸部から内陸部へと広がる壮大な景観を形成してきました。

農家は、日当たり、気温、土壌といった土地ごとの自然条件の違いに応じた多様な品種の選定や栽培技術、地域内での苗木生産による産地の基盤形成、貯蔵技術（蔵出し）等により、高品質な温州みかんを生産しています。

また、長いみかん栽培の歴史の中で、みかんの豊作を祈願する「みかん祭」といった伝統行事が生まれ、石積み階段園を中心とした特有の生態系が育まれています。

令和7年8月認定

和歌山県有田・下津地域

有田・下津地域の石積み階段園
みかんシステム

400年以上の歳月をかけて石積み階段園を築き上げ、地域の取り組みによりみかん栽培が生計の手段へと発展。栽培技術、貯蔵技術、伝統行事などのみかん栽培文化を継承。



蔵での貯蔵の様子

農業遺産の魅力

- ＊ 農業遺産として認定された地域では、概ね100年以上もの間、脈々と受け継がれてきた伝統的な方法で農業・林業・漁業を営んでいます。
- ＊ これらの伝統的な農林水産業は、地域の気候、地形、歴史的背景などに育まれて形成されたもので、独自性が高く、その地域固有の食文化や風土・景観を生み出しています。
- ＊ 農業遺産に認定された農林水産業は、自然資源（土壌や森林、水産の資源）を枯渇させない資源循環システムを有しており、環境負荷が少ないため、日本固有の生き物を含む生物多様性の保全にも貢献しています。
- ＊ 農業遺産は、農林水産業の営みそのものであり、社会的、経済的、生態学的な変化に適応しながら進化を続けている「生きている遺産」です。

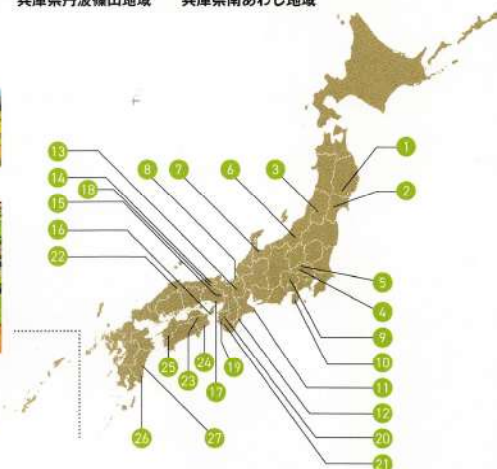
持続可能な開発目標への貢献

農業遺産認定地域の取組は、国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成にも大きく貢献します。



日本農業遺産とは

日本農業遺産は、我が国において重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域（農林水産業システム）であり、日本農業遺産の認定基準に基づき、農林水産大臣により認定されています。現在 28 地域が日本農業遺産に認定されています（令和 7 年 10 月現在）。



日本農業遺産の認定基準

申請地域は、我が国における重要性、申請地域の特徴（世界農業遺産の 5 つの認定基準に、日本が独自に定めた 3 つの基準を加えた 8 つの認定基準）及び保全計画に基づき評価されます。

【申請地域の特徴を評価する 8 つの認定基準】（1～5 は世界農業遺産及び日本農業遺産共通の認定基準、6～8 は日本農業遺産独自の認定基準）

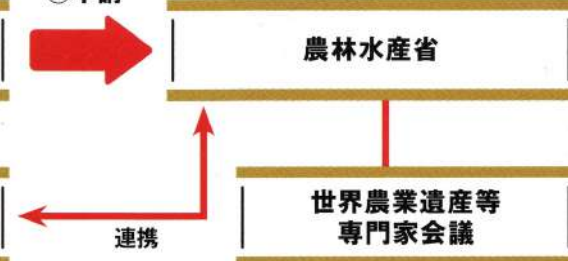
- | | | | | |
|---|------------------|------------------------|-----------------------|-----------------------------|
| 1 食料及び生計の保障 | 2 農業生物多様性 | 3 地域の伝統的な知識システム | 4 文化、価値観及び社会組織 | 5 ランドスケープ及びシースケープの特徴 |
| 6 変化に対するレジリエンス 自然災害や生態系の変化に対応して、農林水産業システムを保全し、次の世代に確実に継承していくために、自然災害等の環境の変化に対して高いレジリエンス（強靱性）を保持していること。 | | | | |
| 7 多様な主体の参画 地域住民のみならず、多様な主体の参画による自主的な取組を通じた地域の資源を管理する仕組みにより、独創的な農林水産業システムを次世代に継承していること。 | | | | |
| 8 6次産業化の推進 地域ぐるみの 6 次産業化等の推進により、地域を活性化させ、農林水産業システムの保全を図っていること。 | | | | |

日本農業遺産の申請から認定まで

① 申請書作成

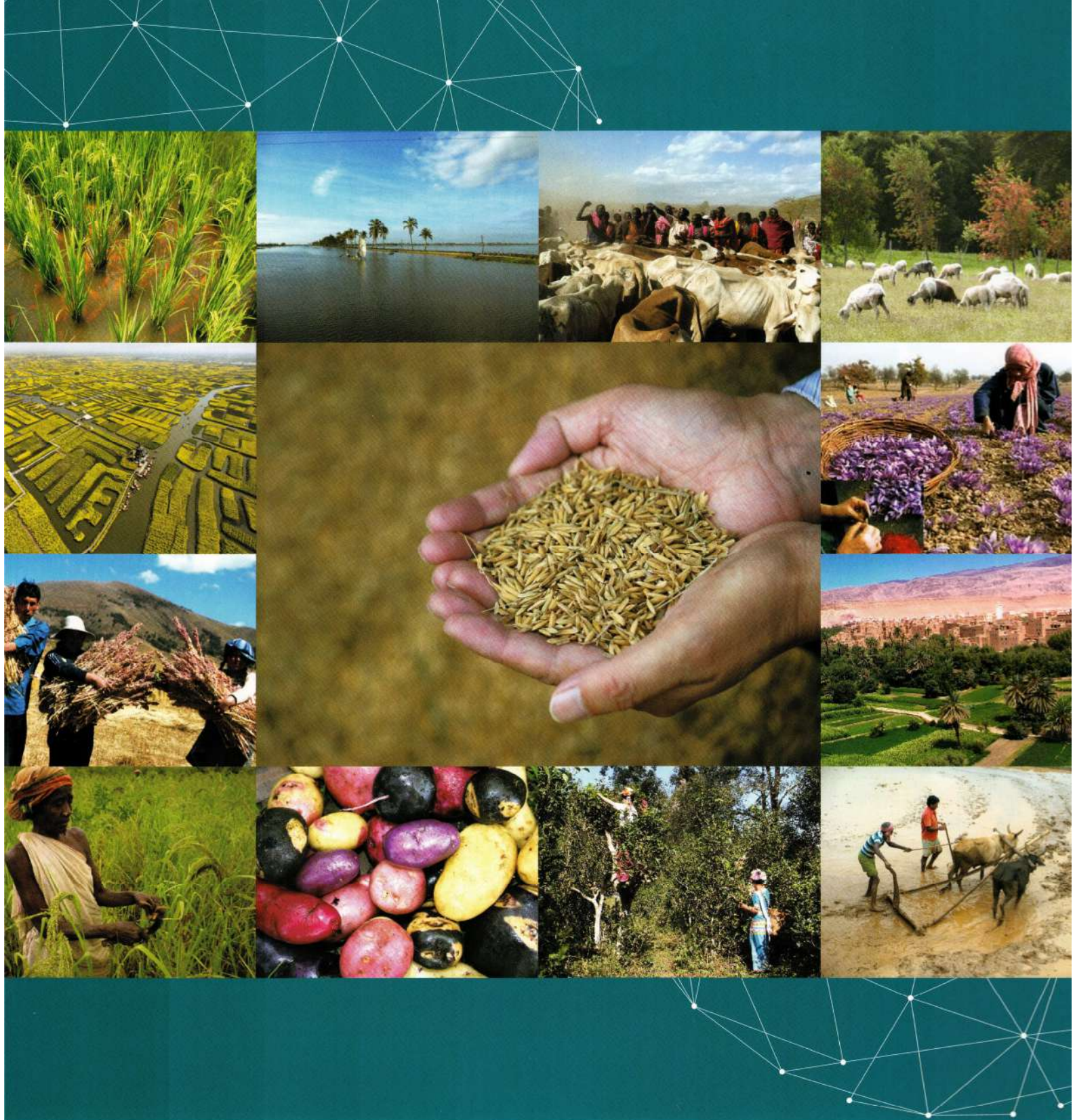


② 申請



認定

- ③ 一次審査（書類審査）
④ 現地調査
⑤ 二次審査（プレゼンテーション）



令和7年10月

世界農業遺産に関する情報は、
農林水産省ホームページにも掲載しています。

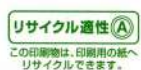
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kantai/index.html>



このパンフレットにつきまして、ご意見、ご質問等がございましたら下記までお寄せください。

発行元 / お問い合わせ先

農林水産省 農村振興局 農村政策部 鳥獣対策・農村環境課
〒100-8950 東京都千代田区霞が関1丁目2番1号
TEL: 03-3502-8111



世界 農業遺産

Globally
Important
Agricultural
Heritage
Systems

